

ASEAN 大使通信

第 4 回 ASEAN とともに新たな課題に取り組む

2023 年（令和 5 年）3 月 31 日



ASEAN ユース経済フォーラム（2023 年 3 月 17 日）

本年に入り、早くも 3 か月が過ぎました。日本 ASEAN 友好協力 50 周年のキックオフも終わり、一連の ASEAN 関連会合の開催が本格化しています。

今月は ASEAN 本部で東アジアサミット大使級会合（EAMJ）や ASEAN 関連高級事務レベル（SOM）会合に初めて出席しました。ASEAN ユース経済フォーラムでは ASEAN 各国の若者に挨拶しました。主要分野の ASEAN センターの代表と意見交換を行う機会もありました。下旬には日本に一時帰国して日 ASEAN フォーラムに出席し、京都や大阪で日 ASEAN 交流関係者とお会いすることができました。

一連の会合、行事や訪問で感じたことは、日本が ASEAN とともに幅広い分野で新たな課題に取り組むことの大切さです。今回の大使通信では、これらの会合や行事について、私自身の所感とともに皆様に報告させていただきます。



EAMJ（2023年3月1日、ASEAN事務局提供）

●東アジアサミット大使級会合（EAMJ）

3月1日、ASEAN事務局の国際会議場で、[東アジアサミット大使級会合（EAMJ）](#)が開催されました。ASEANには、東アジアサミット（EAS）のメンバーである日中韓豪NZ印米露の8カ国を含め、現在11の対話国（Dialogue Partners）があり、全てASEAN専任の大使を派遣しています。2005年のEAS設立からの長年の対話と協力を経て、現在はジャカルタで毎年3回程度、EAS加盟全18か国による大使級の定例会合が開催されています。

本年9月にジャカルタで開催予定のEAS首脳会合の準備に加え、地域情勢についても取り上げられ、私も議論に参加しました。首脳会合の成功に向けて、ASEANを中心に様々な国の当地駐在大使が率直に意見交換を行い、お互いの立場について理解を深めつつ準備を進めることは極めて重要だと思いました。

今回、東ティモール大使が初めてEAMJにオブザーバーとして参加し、全ての出席者から歓迎を受けていました。正式加盟に向けて、日本も今後協力する考えです。



EAS・SOM 会合（2023年3月8日、ASEAN 事務局提供）

●ASEAN+3 と EAS の高級事務レベル（SOM）会合

翌週の3月7日と8日には、[ASEAN+3](#) と [EAS](#) の高級事務レベル（SOM）会合がそれぞれ開催され、日本からは林誠アジア大洋州局参事官が SOM 代理として出席しました。

参加各国からは次官・局長級の高官が本国から出席し、ASEAN と米国やインドの SOM 会合、各種のバイ会合も開催されました。ASEAN 事務局での会合やレストランでのレセプションは多数の要人が行き交う大変な賑わいで、マルチ外交の華やかさを感じました。

私自身、この機会に ASEAN や対話国の本国からの出席者の多くと直接顔を合わせ、挨拶や意見交換を行いました。各国の問題意識や雰囲気について理解を深めることができ、ASEAN は対話国にも貴重な場を提供していると改めて実感しました。



ASEAN ユース経済フォーラムでの歓迎挨拶（2023年3月17日）

●ASEAN ユース経済フォーラム（AYEF）2023

その翌週の3月17日には、[ASEAN ユース機関（AYO）](#)主催の[ASEAN ユース経済フォーラム（AYEF）2023](#)が開催されました。AYOは、2013年にインドネシアとカンボジアの2人の若者により設立された団体で、幅広い活動を展開して、Facebookには現在27万人のフォロワーがいます。

今回のフォーラムは、日本ASEAN友好協力50周年に際して、経済産業省、[日ASEAN経済産業協力委員会（AMEICC）](#)、ASEAN事務局の後援を得て、循環型経済（Circular Economy）をテーマに開催されました。約400人の応募者から選抜されたASEANと東ティモール、日本の若者20名が、セッションへの出席やごみ処理場視察、共同討議を行い、最終日には政策提言を行うものです。

私からは[歓迎挨拶](#)で、今回のフォーラムへの参加者がASEANと日本の未来のリーダーとしてビジョンを共有し、私たちの社会を持続可能で強靱なものとするために活躍してほしいとの期待を伝えました。全日程終了後、日本の参加者に感想を聞いたところ、選抜されたASEANの若者の能力と向上心と明るさ、そしてASEAN内の多様性や格差に強い印象を受けたとのことでした。



ASEAN 生物多様性センターのリム代表一行の来訪（2023 年 3 月 15 日）

●各種の ASEAN センターとの意見交換

ASEAN 各国には各種の ASEAN センターが設立され、ASEAN 域内の共通課題に取り組んでいます。

着任直後に、ジャカルタの [ASEAN 防災人道支援調整センター（AHA Centre）](#) を視察し、バンコクの [ASEAN 持続可能開発研究対話センター（ACSDSD）](#) 所長が来訪して意見交換を行いました。

3月に入り、マニラ近郊ロスバニョスの [ASEAN 生物多様性センター（ACB）](#) 所長、プノンペンの [ASEAN 地域地雷対策センター（ARMAC）](#) 事務局長からお話を伺いました。

ASEAN では、特に各加盟国が強みを持つ分野について ASEAN センターを自国に設立するイニシアティブを取り、ASEAN 全域のために活動しています。日本は、これまで主に日・ASEAN 統合基金（JAIF）を通じて各センターの活動に協力してきました。今後、日本の強みやノウハウも大いに活用しながら、各センターの活動を一層後押ししていきたいと思えます。



日 ASEAN フォーラム (2023 年 3 月 28 日)

●日 ASEAN フォーラム

3 月 21 日からは日本に用務帰国し、アジア大洋州大使会議と日本 ASEAN フォーラムに出席するとともに、司法外交議連の勉強会で「[ASEAN とともに法の支配を推進する](#)」とのテーマで講演も行いました。その後、京都と大阪に出張して、大学や大阪・関西万博関係者との意見交換を行いました。

3 月 28 日の[日 ASEAN フォーラム](#)は、日本の山田重夫外務審議官と、ASEAN 対日調整国であるタイのサラン・チャルンスワン・タイ外務次官が共同議長を務め、ASEAN 各国と ASEAN 事務局から代表者が出席しました。東ティモール民主共和国からも代表者がオブザーバーとして出席しましたが、ASEAN 域外でのオブザーバー出席は今回が初めてとのことです。

会合では、12 月に東京で開催予定の日 ASEAN 特別首脳会議に向けての関係強化の方向性に加え、地域・国際情勢についても議論が行われました。対面開催は 3 年振りです。時期も良く、ASEAN 各国や事務局の皆さんに日本の桜を楽しんでいただくことができました。



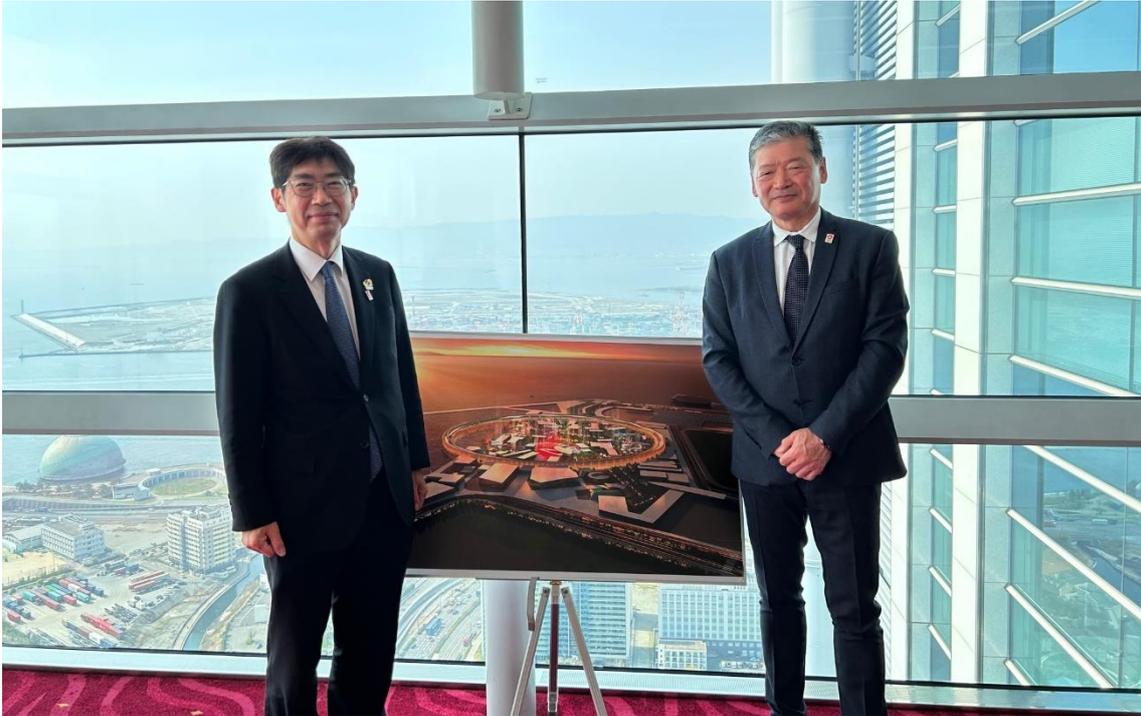
京都大学東南アジア地域研究研究所での意見交換（2023年3月29日）

●日 ASEAN の知的交流の推進

3月29日には、[京都大学東南アジア地域研究研究所](#)を訪問して、長年にわたる日 ASEAN 間の知的交流の進展について説明を伺うとともに、友好交流 50 周年に際してどのように取組を強化するか意見交換を行いました。

京都大学は 2014 年にバンコクに [ASEAN 拠点](#)を開設しました。また、2015 年には「[日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点 \(JASTIP\)](#)」事業がスタートし、環境・エネルギー分野、生物資源・生物多様性分野、防災分野で ASEAN 各国の大学や研究機関とともに共同研究を推進しています。

このような日 ASEAN 間の科学技術イノベーション分野での協力実績を基盤に、日本と ASEAN が知的交流や研究協力を幅広い分野で推進し、世界に貢献するための方策を具体化すべく、検討を進めていきたいと思えます。



大阪・関西万博会場を背に櫛（いちのき）真夏万博協会副事務総長と
(2023年3月30日)

●大阪・関西万博に向けて

2025年4月から10月まで開催予定の[大阪・関西万博](#)には、ASEANも出展する方向で準備を進めています。3月29日の午後から30日にかけて、堺市、関西経済団体連合会（関経連）、大阪府、2025年日本国際博覧会協会（万博協会）を訪問して、この万博の機会を日ASEAN交流の推進に生かすべく意見交換を行いました。

堺市は、[ASEAN との交流](#)を市を挙げて行っています。2009年に市制施行120周年を記念して堺・ASEANウィークを開催し、その後もフォトコンテストや文化講座などの事業を行い、最近は大学生による[パンフレット](#)も発行しました。

関西経済連合会は、1980年からASEANの若手経営者を日本に招いて[経営研修](#)を行っています。その実績を踏まえ、2019年からASEANの7経営団体とともに[アジア・ビジネス創出（ABC）プラットフォーム](#)を立ち上げました。

大阪府と万博協会とは、大阪府咲洲庁舎最上階から万博会場を見下ろしながら、本年の日本ASEAN友好協力50周年のモメンタムを2025年の大阪・関西万博につなげていくための機会や課題について話し合うことができました。



日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念広報の[タイ文化紹介](#)（2023 年 2 月 28 日）

●ASEAN とともに新たな課題に取り組む

今月、ASEAN 友好協力 50 周年の機会を生かして新たな課題に取り組むべく、日 ASEAN 双方の関係者とお会いして強く感じたことは、「ビジョン」と「課題解決」と「信頼関係」の 3 つを同時に推進し実現していくことの大切さです。

日 ASEAN 協力の大きな方向性や将来像を提示し、認識を共有することは重要です。ただし、それが説得力を持つためには、実際に個別の分野で諸課題の解決に役立つことを具体的に示す必要があります。そして、そのような協力を実現する上で、長年の相互理解と信頼関係の積み重ねが大きな力を発揮します。

今般、日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念広報の一環として、ASEAN 加盟国を毎月 1 か国取り上げ、日本との関係やその国の文化について動画で発信することを通じて、相互理解を深める取組を始めました。2 月は対日調整国の[タイ](#)、3 月は ASEAN 議長国の[インドネシア](#)を取り上げています。

本年を機に、日 ASEAN 協力の成果を日 ASEAN 双方のみならず世界に生かしていけるよう、多くの皆さんとビジョンを共有し、幅広い分野で具体的な課題を解決し、信頼関係を深めていくための取組を着実に進めていきたいと思っております。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦